

りょうてい えんかい かぶおんぎよく
料亭の宴会には歌舞音曲(※9)がつきものです。毎日三味
たいこ す きら とど
線や太鼓などの音が好き嫌いにかかわらず、いつも耳に届い
ていたのです。それに母親も兄弟も歌舞音曲が好きで、近所の
げきじょう えいが つ
留萌劇場に映画がくるたびによく見に連れていかれました。
たたみじ さじき すわ たんげ さぜん
畳敷きの棧敷(※10)に座り『丹下左膳』や『キングコング』な
どにわくわくしたものです。この音楽が留萌で聞いた最初の
さいしよ
オーケストラの音楽でした。

かんきょう しんどう
こんな家庭環境だったことから、小学校で音楽は神童(※
11)と言われ、学芸会の独唱や劇の主演をこなしていました。

かぶおんぎよく
※9 歌舞音曲

おど
歌と踊りと音楽。

さじき
※10 棧敷

げきじょう いちだん いたじ せき
劇場などで、一段高く作った板敷きの見物席。

しんどう
※11 神童

さいのう ち え きわ
才能と知恵が極めてすぐれている子ども。